

令和 8 年 7 月 16 日 (木)

令和 8 年度 第 2 回 学校運営協議会

校長室 10:15～13:00

司会：副校長 記録：教務主任

【第一部】(10:15～ 校長室)

①豊田会長より

- ・語る会でどんな質問がでてくるか、ドキドキしていますが楽しみです。

②本日の流れ (校長)

- ・児童アンケートについての説明
- ・子どもと語り合う会としたい。
- ・4 時間目は振り返りの会、給食交流

③7 月までの学校の様子 (校長)

- ・波線が主に今年度新たに取り組んだ内容
- ・ユニセフ募金活動についての報告
- ・防災センター見学…地域の防災倉庫見学につなげていきたい。

④ スポーツフェスティバル アンケートの報告 (校長)

- ・概ね好意的な回答が多かった。
- ・改善点について、取り入れられるものは改善していきたい。

- ・アンケート対象は？…全学年の保護者による回答です

- ・午前開催になった経緯は？…児童の体力面等を考慮し、全市的に午前開催の傾向

・入場できなかった人がいたようだ。その理由は？…防犯上、関係者(家族等でチケットを持っている人)のみ入場できるようになっている。

- ・運動会にキッズ利用の申し込みが入ってしまっていた (入退出システム)

【第二部】(3 校時 6 年教室、4 校時 校長室)

「地域行事への参加について」

- ・子ども達の率直な意見が出ていた。

- ・参加したい…楽しい、盛り上がる

- ・参加できない…自分が忙しい、内容を知らない

・祭りの準備なら手伝える、いちち川の掃除がしたい、など、きっかけがあれば、中身を知れば、子どもたちも関われるものがある。

- ・お祭りの当日は遊びたい！準備ならば関われる。
- ・地域の行事を学校の中でも PR するなどの意見が出た。
- ・参加する機会を与えていないかも、と反省した。役員会等で地域にも返していきたい。
- ・やりたい、参加したいという気持ちはあるが、何があるのか知らない。学校に地域の PR をする場所があると良い。地域も、子どもボランティアを積極的に呼びかけると良い。経験を重ねながら、将来大人になって地域に入ってくれれば嬉しい。
- ・呼びかける手段にネット、SNS を活用していく考えも出ていた。
- ・地域行事を親から子どもに伝える流れを、子どもから親に伝える形にもできないか。
- ・回覧板の周知率は高くない。あくまでも大人向けのもの、子どもには伝わらない。

→周知の手段、内容を見直し、子ども主体になる仕組みを考えてみる。

「言葉で思いを伝えるには」

- ・大人でもできていないことを、6年生の子どもたちが真剣に考えている現状をしり、大人も気をつけな
いといけないと思った。
- ・スタンプひとつ返すのにも気を使う…大人と同じ。話をされていて遜色がない。
- ・どんまい！がんばれ！…チクチク寄りのフワフワ言葉？
- ・言葉だけで片付けることは難しい。心との一致が本質。
- ・言葉の上だけでないところをよく感じ取っている。
- ・非言語の部分を大切にしながら、相手の様子をよくみる…が、実際にできるか？
- ・言葉を短くする傾向…正しく意図が伝わらないことも、注意しなければいけない
- ・子どもが周りの友達の考えを聞き、様々に考える機会となったのではないか。
- ・「いってらしゃい」「楽しんでこい」などの言葉。大人が言語環境となる。

Q 昨年度は教職員と、今年度は子ども達との時間を設定したがどうだったか？

- ・子どもと対話することは大切。今の子ども達の考え、感覚に触れることができた。
- ・6年生が様々なことを深く考えて日々を送っていることがわかった。
- ・時代による言葉の変化、意味や捉え方の違いを感じられた。
- ・子どもの生の意見に触れられる機会は貴重。

【終わりの言葉】

- ・日頃の指導があって、6年生がしっかり話をしていた。我々にとっても良い時間となった。